

平成29年度学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校生徒は礼儀正しく意欲を持って何事にも真面目に取り組むが、一方でさらなる自主性、主体性が望まれる状況にある。そこで、生徒が自ら高い進路目標を掲げ、意欲的に学習活動や学校生活に取り組むことを促す取り組みを継続している。

今年度の具体的重点目標としては、これまで継続してきた「家庭学習の充実と教師の授業力向上」、「基本的生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上」、「一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の実践」、「学校行事への意欲的な取り組み」、「科学的思考力の習得」に加え、「健康な学校生活を送るための質のよい睡眠の習得」を掲げた。

自己評価では、6分野11項目の目標について、Aが4項目、Bが3項目、Cが4項目であった。評価Cがついた4項目のうち、[家庭学習の充実]・[スマートホンの利用時間短縮]・「安定した家庭学習時間の確保」については相互関係があり、生徒自身が家庭学習の意義を理解し、スマートホンの善用と相俟って自主的・計画的に学習に取り組むよう働きかけることが必要である。探究科学科を中心とする[課題発見力・論理的思考力の育成]においては、「批判的」「協働的」「創造的」の3つの思考力のうち、「批判的思考力」の育成に課題を残した。これらの思考力育成のため、探究科学科の科目の指導に改善を加えるとともに、時代の要請に応じて、普通科を加えた学校全体の教育活動に活かしていく必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の学校経営計画とその評価を踏まえ、次年度も「一人ひとりの生徒が自ら学び、考え、行動する力を培い、科学的思考力や探究力など、より確かな学力とより高い目標に向け、主体的に進路選択する能力や態度を身につける」ことができるように実践研究や授業改善等を図る必要がある。

[教師の授業力向上]については、「新学習指導要領」の実施を見据え、「高大接続に関する様々な動き」に即応した「主体的対話的で深い学び（アクティブラーニング）」型授業の研究を継続的に進めていく必要がある。

8 学校アクションプラン

重点項目	学習活動	
重点課題	家庭学習の充実(生徒)と教師の授業力向上	
現 状	<p>(1)本校では家庭学習時間を1日平均4時間以上確保するよう指導しているが、目標を達成している生徒がいる一方で平均2時間を下回る生徒も見受けられる。また、目標時間を確保しながらもなかなか成績の向上に結びつかない生徒も見受けられる。</p> <p>(2)生徒の実態は年々変化しており、それと共にこれまでの講義形式の授業だけでは、生徒の主体性を十分に引き出すのが難しくなっている。教師は「学び合い」・ICTの活用など、授業形態に工夫を凝らし、内容の充実を図りながら、生徒の主体性の引き出しや学力のより一層の伸長を模索する必要がある。</p>	
達成目標	<p>[家庭学習の充実]</p> <p>①1・2年生の学習時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日平均2時間未満の生徒の割合が10%未満。 <p>②効率的な学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的で効率的な学習ができるようになり、学習の総量が増える生徒の割合 60%以上。 	<p>[授業力向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学び合い」又は「ICTの活用」を行った授業の割合 80%以上。 ・授業満足度(分かりやすい説明、板書等) 80%以上。
方 策	<p>1 全体指導の強化に加え、担任による面接等を通し学習時間の確保に問題をかかえる生徒を重点的に指導する。</p> <p>2 時間の使い方について日頃から指導し、学習効率の向上に取り組ませるなど、学習の質を上げようとする意識を持たせる。</p> <p>3 ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について研究を進める。</p> <p>4 各教科・科目において「学び合い」・ICTを活用した授業等を計画的に設定し、生徒の主体性を引き出す。</p>	
達成度	<p>① 2時間未満生徒の割合</p> <p>1年 [4月] 7%(11%) [9月] 20%(16%) [1月] 20%</p> <p>2年 [4月] 23%(19%) [9月] 24%(19%) [1月] 16%</p> <p>※()内は昨年の数値</p> <p>②「1学期より計画的で効率的になった生徒」</p> <p>1年[1月] 80% 2年[1月] 70%</p> <p>「1日あたりの学習総量が増えた生徒」</p> <p>1年[1月] 79% 2年[1月] 72%</p>	<p>①「学び合い」「ICTの活用」</p> <p>1年 [7月] 88% [12月] 81%(91%) 2年 [7月] 89% [12月] 84%(92%) 3年 [7月] 95% [12月] 72%(92%)</p> <p>②授業の満足度</p> <p>1年 [7月] 89%(94%) [12月] 95%(95%) 2年 [7月] 90%(90%) [12月] 95%(93%) 3年 [7月] 93%(95%) [12月] 89%(94%)</p> <p>※()内は昨年の数値、7月は全校生徒対象、12月は抽出調査</p>
具体的な取組状況	<p>1 担任による面接を各学期2回程度行い、学習状況の把握、学習習慣や生活習慣の見直し・改善に向けたアドバイス等を行っている。</p> <p>2 学年集会等で「学習パターン」を具体的に提示し、夏休み・冬休み・春休み直前には「しおり」を通して指針を示すなど、時間の自己管理について指導している。</p> <p>3 9月の学習時間調査前に体育大会や文化活動発表会など2大行事後の生活の見直しを指導したが十分な効果が見られなかったため、1月にも指導を行い調査を実施した。</p> <p>4 主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の活用を学校全体に促し、「学び合い」の導入やICT機器の活用を含め、授業改善に努めてもらうよう呼びかけている。</p>	
評 価	C	A
	<p>学習効率・学習総量の向上については7割以上の生徒が向上したと答えたが、1日の家庭学習時間が平均2時間未満の生徒(ほとんどが1時間から2時間)の割合が2割近くを占め、家庭学習時間の2極化が定着してしまっている。特に、1年生では、夏休み以降行事が続いたところで生活のリズムを崩している生徒が立て直せずにいる。これらの生徒の中には、曜日によって学習のムラがある生徒もあり、常に一定以上の学習をする習慣をつけさせる必要がある。</p>	<p>授業満足度は、どの学年においても高い数値を示した。これは、「学び合い」の定着により、生徒自身が主体的に授業に参加する意識が向上し、対話的で深い学びに繋がってきていることや、ICT機器の活用により授業の効率化がはかられ、それに伴って生じる時間を考える時間にあてたりする取り組み等が広まってきたためではないかと推測される。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の学習時間と学力の相関をとり、きめ細かな指導につなげてほしい。 ・学習時間の量だけでなく、質の向上という視点も必要だ。 ・授業担当者だけでなく、部活動の顧問からの支援もあるのは大変ありがたい。学校全体での指導をお願いしたい。 	

<p>次年度へ 向けての 課題</p>	<p>学習習慣が定着していない生徒に対する粘り強い指導が必要。学習総量を向上させることで学力を向上させ、更なる学習意欲の向上につながるよう指導したい。</p>	<p>「学び合い」やICT機器の活用研究を通して、生徒の主体的学習態度を引き出し深い学びに繋がるよう、さらなる授業改善を行っていききたい。</p>
-----------------------------	---	---

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活													
重点課題	基本的な生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上	健康な学校生活を送るための質のよい睡眠の習得												
現 状	<p>本校では『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習に支障をきたす生徒も見受けられる。</p> <p>素直で真面目であるが、現実柔軟に対応できず悩みを抱えてしまう生徒が多く、高校生活に適応しづらくなっている生徒が増えている。教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、ストレスや悩みの解消に向けて援助する取り組みが必要である。</p>	睡眠時間が6時間に満たない生徒が3割近くおり、5時間未満の生徒も7%近く存在する。また、日常的に体調不良を訴える生徒もおり、原因として睡眠不足とストレスをあげる生徒が多い。												
達成目標	<p>①スマートホンの利用時間短縮 ②研修会の充実</p> <p>①概ね年間を通して、平日のスマートフォン使用時間(学習目的以外)1時間以内の生徒割合が70%以上。</p> <p>②生徒・教員・保護者を対象とする講演会や研修会・ワークショップを年間5回以上実施し、満足度が80%以上。</p>	学校生活における質のよい睡眠が大切であると認識する生徒の割合が8割以上となるようにする。												
方 策	<p>1. 生活習慣が乱れていると考えられる生徒には、担任や学年主任が面接等をするともに、保護者と連携し改善を促す。</p> <p>2. 生徒に対して適宜講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、心身に問題を抱える生徒を早期に発見し援助する。</p> <p>3. 教育支援部や保健厚生部などと連携し、教員や保護者が悩みやストレスに対応するためのスキルを、満足感が得られる内容で学ぶ機会を設ける。</p>	<p>1. 生活実態調査により、生徒実態を把握する。</p> <p>2. 保健委員会で「質の良い睡眠の大切さ」について調査し、保健便りなどを使って啓蒙活動を行う。</p> <p>3. 外部講師による睡眠の大切さに関する講演を実施する。</p> <p>4. 達成度確認のためのアンケートを実施する。</p>												
達成度	<p>①平日の利用時間(学習目的以外)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0分～60分</td> <td>51%</td> <td>58%</td> <td>54%</td> </tr> <tr> <td>60分以上</td> <td>49%</td> <td>42%</td> <td>46%</td> </tr> </tbody> </table> <p>②生徒対象4回、保護者対象2回、教員対象1回 計7回実施、満足度8割以上</p>		1年	2年	計	0分～60分	51%	58%	54%	60分以上	49%	42%	46%	<p>・外部講師による睡眠に関する講演後のアンケートの結果:睡眠の大切さが、「よく分かった80%」、「分かった」20%、「自分の睡眠に要改善点がある」88%</p>
	1年	2年	計											
0分～60分	51%	58%	54%											
60分以上	49%	42%	46%											
具体的な取組状況	<p>①スマートホンの適切な使用については、集会や生徒同士の話し合いを通じて、意識の高揚を促した。</p> <p>②他の分掌部会とも連携を図り、研修会や講演会等を企画した。</p>	<p>・1・2年に対して実態把握のアンケート実施(6月)</p> <p>・「保健だより」の発行、ポスターによる啓発活動実施</p> <p>・講演の実施(「健康教室『睡眠をとらぬ自負よりとる勇氣』」竹内正志医師(本校107回生))</p>												
評 価	① C ② A	B												
	<p>①スマートホンの利用時間が長いと感じている生徒が5割近くおり、自分に対する甘さがみられる。</p> <p>②それぞれの出席者は問題意識を持ち、概ね意欲的に参加していた。</p>	<p>・生徒の実態について専門医と密接に連絡調整し、講演会を実施した結果、多くの生徒が睡眠の大切さを理解し、生活改善に取り組もうとする姿勢を示した。</p> <p>・睡眠の大切さは認識しているが、「質の良い睡眠」のとらえ方には個人差があると推測される。</p>												
学校関係者の意見	<p>・スマートフォンは有用性を認めつつ、生徒自身に適切な使用について自覚を持たせる必要がある。</p> <p>・ルールを決めさせ、目標を持たせることにより、学習時間を確保し、スマートフォンにかかる時間を減らしていくよう導けるのではないかと。</p> <p>・質の良い睡眠を取るという取り組みは今後も続けてほしい。</p>													

次年度へ
向けての
課題

・スマートフォンについては生徒間での情報交換の場から問題意識を高め、悪影響をどう振り払っていくかを考えさせたい。
・「質の良い睡眠」を学習・部活動と表裏一体の重要事項としてとらえ、最新の科学的知見の還元など、充実した学校生活につながる取り組みを展望したい。また、今後保護者に対する啓蒙活動も図る必要がある。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の実践	
現 状	<p>1 具体的な進路目標の決定が遅く、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒が少なくない。</p> <p>2 個々の生徒に応じた進路支援を行うよう努めているが、必ずしも生徒自らが自己の適性や能力を真剣に考えて進路目標を定めているとは言えず、自己を過大あるいは過小に評価したまま漠然とした進路目標の設定に終始してしまう生徒も見受けられる。</p>	
達成目標	①[安定した家庭学習時間の確保]	②[高い進路目標の設定]
	生活実態調査などを通じて調査し、年間を通じ平日3時間以上・休日6時間以上、1週間あたり28時間以上の家庭学習を日常的に実施している生徒の割合が70%以上	2年2月時点での難関10大学と医学部医学科を志望者している生徒の割合が60%以上
方 策	<p>1. 同じ進路目標を持つ(特に最難関大学志望)生徒の集団を、補講や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、互いに切磋琢磨できる環境を各学年のさまざまな場面で育成するよう努める。</p> <p>2. 適切な進路指導を行うため、生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。</p> <p>3. 社会人や大学生を招いてのキャリア講座・進路講演等を実施し、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びつくよう指導する。</p> <p>4. スケジュール帳を積極的に活用させ、進路目標の設定や学習習慣の向上に役立てさせる。</p>	
達成度	<p>平日3時間以上・休日6時間以上、1週間当たり28時間以上の学習時間を確保している生徒の割合</p> <p>・1学年 9.6%</p> <p>・2学年 29.3%</p> <p>・3学年 65.8% 平均 34.9%</p>	<p>・進路希望調査 難関10大学と医学部医学科を志望者している生徒の割合</p> <p>2学年 60.3% (164/272名) (1月進路希望調査)</p> <p>(参考) 1学年 54.1% (152/281名) (11月進路希望調査)</p>
具体的な取組状況	<p>・学年集会などで、繰り返し学習時間の確保の必要性を訴える。</p> <p>・担任面談では、スケジュール帳を持参させ、自分の生活の実態について再確認させるようにする。</p> <p>・12月14日の進路講演会では、灘高校の木村達哉先生を招き、「授業ではやり方を学ぶ」だけでなく、実際に学力を伸ばすのは家庭での学習である点を生徒に実際の例をあげながら話していただいた。</p>	<p>・学年集会や面接などで東京大学をはじめとした難関大で学ぶことの意義や魅力を紹介。(年間を通して)</p> <p>・OB大学生講演会(2年5月)</p> <p>・OB大学生との座談会(8月)</p> <p>・東京大学訪問(2年8月)</p> <p>・進路講演会の実施</p> <p>・大学研究・難関大オープンキャンパス参加への取り組み(7月・8月)</p> <p>・予備校講師や職員からの講話(9月・12月)</p>
評 価	C	B
	<p>学年を上がるたびに、上記の目標を達成している生徒が増加しているが、3学年においても目標の70%を達成していない。1・2年生では、やはり学習時間が日によって大きな「ムラ」があることが、達成率の低さになっていると思われる。引き続き、「生活の三点固定」を訴え、目標に近づけていきたい。</p>	<p>学年集会・面接指導などを通して、高い志望を持つように働きかけて、2年生では1年次より高い目標を持つようになってきている。この態度を学習面の向上と進路の「結果」につながるよう指導していきたい。</p>
学校関係者の意見	<p>・学習時間や難関大志望者の割合は学年進行とともに上昇している。がんばっているのではないか。</p> <p>・大学に入学し、就職時期を迎えても進路選択ができない学生が増えている。高校在学中にしっかりとしたキャリア教育を行う必要がある。</p>	

<p>次年度へ向けての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への努力目標として、上記の学習時間は引き続き提示していくが、アクションプランとしてはこの目標でいいのかを職員で再検討していく必要も感じた。(実現可能な具体的な数字を設定すべきでは) ・進路講演会は、生徒の学習習慣の構築に大変有意義だったので、人選を慎重にしながらも継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い進路志望を持っている生徒が、必ずしもしっかりとした学習習慣を身につけているわけではないので、その志望に近づくための具体的方策を、生徒ともに模索していく。 ・難関大に進学したOBとの懇談会の機会を増やし、その魅力を伝える機会を増やす。
-------------------	---	--

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動の充実	
重点課題	学校行事への意欲的な取り組み	
現 状	<p>学校行事は生徒の主体的活動を促し、心身の調和のとれた発達を図り、学校の活力醸成のために重要なものである。よって内容が豊かで充実していることが大切である。本校では生徒と教職員が協力して諸行事を運営しているが、積極的に参加している生徒がいる反面、やや消極的で自主性・創造性に欠けた生徒も見受けられる。年間の行事の意義や各行事の目的・方法を検討するとともに、生徒の意識調査を通じて今後の学校行事への意欲的な取り組みにつなげていきたい。また、90%の生徒が部活動に参加していることを踏まえ、部活動がより良い学校生活づくりや意欲的な進路選択に役立つよう支援していきたい。</p>	
達成目標	1.本校の二大学校行事(体育大会、文化活動発表会)について充実していると感じた生徒の割合85%以上。特に意欲度・満足度では、85%以上になるようにする。	2.部活動の引退後、進路選択に早期に意欲的に取り組めるようにする。
方 策	<p>1.行事検討委員会において年間における特活行事の時期、目的、内容等の検討を行う。 2.主な学校行事(体育大会、文化活動発表会、)に対して以下の項目を中心にアンケートを実施する。①計画・運営に協力できたか。②意欲的に参加できたか。③満足度④その他意見 3.部活動の引退後、早期に進路の決定に向けて意欲的に取り組むことができたかアンケートを取り、指導に役立てる。</p>	
達成度	<p><3年生の体育大会アンケート結果> ①協力度 ②意欲度 ③満足度 88.2% 87.6% 89.6%</p> <p><1・2年生の文化活動発表会アンケート> ①協力度 ②意欲度 ③満足度 1年生 92.2% 87.7% 83.1% 2年生 84.6% 85.4% 84.6% 全 体 88.3% 86.5% 83.9%</p>	<p><3年生の部活動アンケート> ①所属率 ②意欲度 92.8% 97.5% ③一ヶ月以内の切替 88.1%</p>
具体的な取組状況	<p>1.体育大会については、昨年同様3年生から実行委員を選んで企画・運営を行った。実行委員が考え行動することで、生徒が主体的に行事に取り組むことができた。 2.文化活動発表会については、1・2年生の生徒会が中心となって早くから企画・運営を行った。こちらも生徒自身が主体的に関わることで研究発表の内容が深いものとなった。 3.多くの生徒が、3年次まで部活動に所属している。学級、学年以外に、部活動の場面でも顧問が生徒に積極的に声かけを行うなど、生徒の学習面でのフォローも行っている。</p>	
評 価	B	A
	<p>・体育大会のアンケート結果では、どの項目も概ね高い数値が見られたが、雨天による競技の中止や開始時間の遅れに対する不満も見られた。また、実行委員には2年生も入れたらよいという意見もあり、自分たちで主体的に運営することへの前向きな様子がうかがえた。 ・文化活動発表会においても、概ね高い数値が見られたが、第1体育館が使用できなかったことで発表等への影響があったことへの指摘や、実施規則の通達の遅れを指摘する意見も見られた。</p>	<p>・部活動では、9割以上の生徒が3年次まで部活動を継続し、それらのほぼ全員が引退まで意欲的に参加できたと回答した。また、引退後の受験への切替も1月以内の生徒が9割近くを占め、部活動引退後には速やかに受験勉強に移行できたと思われる。</p>
学校関係者の意見	<p>・限られた時間の中で部活動や学校行事に集中して取り組んでいるのはすばらしい。 ・さまざまな経験の中で身についた企画力、協働力、実践的思考力等は、今後の生活にも活かされるだろう。</p>	

次年度へ
向けての
課題

- ・体育大会は、雨のため団体戦のみとなったが、大きなケガもなく無事終了することができた。
- ・文化活動発表会では、計画段階から準備期間の不足にならないよう、時間の余裕を持たせる必要がある。
- ・部活動で培った体力、精神力等が、学習面での結果につながるよう、今後とも指導していく。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	科学教育の推進																					
重点課題	科学的思考力の習得																					
現 状	変化の激しいこれからの時代を生き抜くためには、「知識が豊富であること」だけではなく、「自ら課題を設定し、論理的に思考し、科学的なスキルを活用し解決を図っていく力」が必要となる。それらを育む効果的な教育課程が求められている。																					
達成目標	①[課題発見力・論理的思考力の育成]	②[意欲的学習態度の育成]																				
	※「GPSアカデミック(12月実施)」 上記検査を実施し、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の育成・確認を行う。各項目の判定「A以上」の生徒(探究科学科)の割合 60%以上	※「意識(興味・関心・意欲)調査」 「課題発見力」や「論理的思考力」を育成する学習に意欲的に取り組んだ探究科学科の生徒の割合 80%以上																				
方 策	<p>1 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」の指導内容・指導方法を十分研究し、その教育課程について授業担当者の共通理解と密接な連携のもとに実施する。</p> <p>2 単元ごとの自己評価に基づき、生徒自らより高い目標を設定し主体的に学習に取り組むことで、高い学力を形成できるよう指導する。また生徒の将来に必要な力を育むための教育課程であることを自覚させ、意欲的に取り組ませる。</p> <p>3 巡検研修を「探究基礎Ⅰ」と、東京方面研修を「探究基礎Ⅱ」と効果的に連携させ、探究活動をより深められるよう実施する。</p> <p>4 「課題発見力」や「論理的思考力」を育成する学習を、1・2年普通科「総合的学習の時間」の指導にも取り入れる。</p>																					
達成度	<p>「GPSアカデミック」実施結果(80名参加) <到達度 S~D 5段階></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>A以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①批判的思考力</td> <td>0</td> <td>22(27.5%)</td> <td>55(68.8%)</td> <td>22(27.5%)</td> </tr> <tr> <td>②協働的思考力</td> <td>2(2.5%)</td> <td>17(22.1%)</td> <td>53(66.3%)</td> <td>19(23.8%)</td> </tr> <tr> <td>③創造的思考力</td> <td>3(3.8%)</td> <td>35(43.8%)</td> <td>34(42.5%)</td> <td>38(47.5%)</td> </tr> </tbody> </table>		S	A	B	A以上	①批判的思考力	0	22(27.5%)	55(68.8%)	22(27.5%)	②協働的思考力	2(2.5%)	17(22.1%)	53(66.3%)	19(23.8%)	③創造的思考力	3(3.8%)	35(43.8%)	34(42.5%)	38(47.5%)	<p>「意識(興味・関心・意欲)調査(3段階評価)」の実施結果<段階3:よくできるようになった、または2:できるようになったの生徒の割合></p> <p>6月「論理的思考力を高める学習に興味を持って、自ら進んで取り組んだ。」 ……97.5%(昨年度97.5%)</p> <p>9月「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」 ……97.5%(昨年度100.0%)</p>
	S	A	B	A以上																		
①批判的思考力	0	22(27.5%)	55(68.8%)	22(27.5%)																		
②協働的思考力	2(2.5%)	17(22.1%)	53(66.3%)	19(23.8%)																		
③創造的思考力	3(3.8%)	35(43.8%)	34(42.5%)	38(47.5%)																		
具体的な取組状況	<p>【探究科学科1年】 4~5月に、「論理の前提・飛躍、因果関係、推論、反論」などの論理的思考方法を学んだ。 6月~7月は、理数科学科・人文社会科学科とも「巡検研修」として、班ごとにフィールドワーク(7月)を含む探究的学習活動に取り組んだ。 仮説→検証の科学的手法に則って研究の成果をまとめた。 9月の文化活動発表会において科別の発表を行い、その後は班に分かれ課題研究に取り組み、その成果を12月に科内ポスターセッションで発表した。 12月より2年次に取り組む課題研究に向け、テーマ設定等に向けた事前学習に取り組んでいる。また3校合同発表会で、3校の上級生のポスターセッションに参加・見学した。 1月に「サイエンスダイアログ」を実施し、大学や研究機関で活躍している若手外国人研究者から、英語で研究の話聞く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた。</p> <p>【探究科学科2年生】 4月より各班の計画に従い、探究活動を行った。5月にかけて、富山大学教官による指導助言を受け、課題研究テーマの方向性について調整を図った。 8月、2泊3日の東京方面研修で、大学見学および最先端の研究機関の施設見学や班別学習による課題研究に沿った研修・見学を行った。 9月の文化活動発表会、また12月の3校合同発表会でポスターセッション形式のプレゼンテーションを行った。 3学期は、これまで行った発表を研究集録にまとめた作業を行い、2月には科内発表会を開き、互いに質問や意見交換をする中で内容を深め、探究活動の締めくくる予定である。</p> <p>【普通科1・2年】 1学期に「論理的思考力」を育成する学習を4時間実施した。その結果、文化活動発表会では、「仮説をたてて、検証を試みる」という手順を含む内容が、定着してきている。</p>																					
	C	A																				

評 価	<p>今年度より実施した「GPSアカデミック」で、本校の評価が最も高かった項目は「創造的思考力」であった。それでもA以上の評価の生徒は全体の50%未満であった。今後は、批判的・協働的・創造的思考力の3つの思考力を養うために、「探究基礎Ⅰ」の新たな活用法を考え、その指導方法を確立していきたい。</p>	<p>目標の80%以上が意欲的に取り組んだ結果が出た。より主体的・意欲的に取り組めるよう、内容や指導方法を工夫していきたい。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力、論理的思考力の育成は時代の要請である。探究科学科での取り組みを一層すすめてほしい。 ・探究科学科での成果を普通科にさらに波及させてもらいたい。 	
次年度へ向けての課題	<p>昨年度、「探究基礎Ⅰ」の抜本的な見直しを図った結果、今年度の1年巡検研修は理数、人文ともに、さらに充実した内容となった。しかし、2学期以降については、工夫・改良しなければいけない点もある。「探究基礎Ⅱ」は、実質のスタートが5月以降となり、時間不足を感じる内容のものもあった。計画の立案をしっかりと行い、指導者が経験を積み、より効果を得られるような工夫を継続的に行っていく必要がある。また、その前提となる教職員間の共通理解を深める工夫も必要である。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)